



Ⅷ 来場者の状況

来場者の状況

延べ来場者数: 177,659人

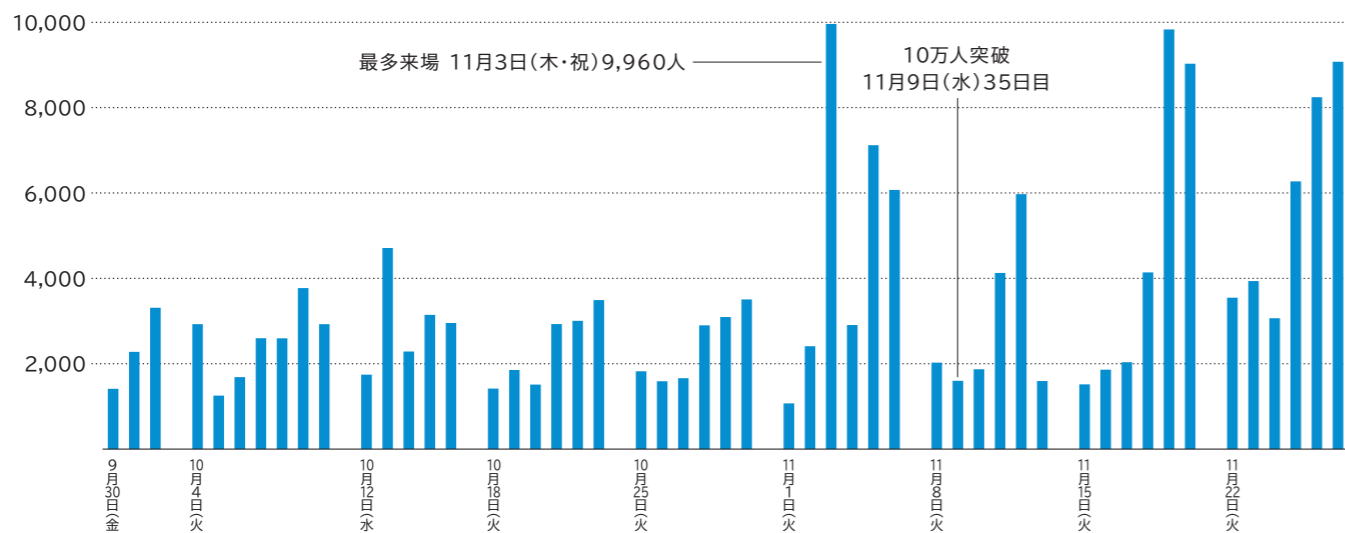
有料施設別来場者数: 計53,455人

会場	人数
旧内山下小学校	21,301人
岡山県天神山文化プラザ	9,761人
岡山市立オリエント美術館	14,217人
シネマ・クレール丸の内	1,205人
林原美術館	6,971人

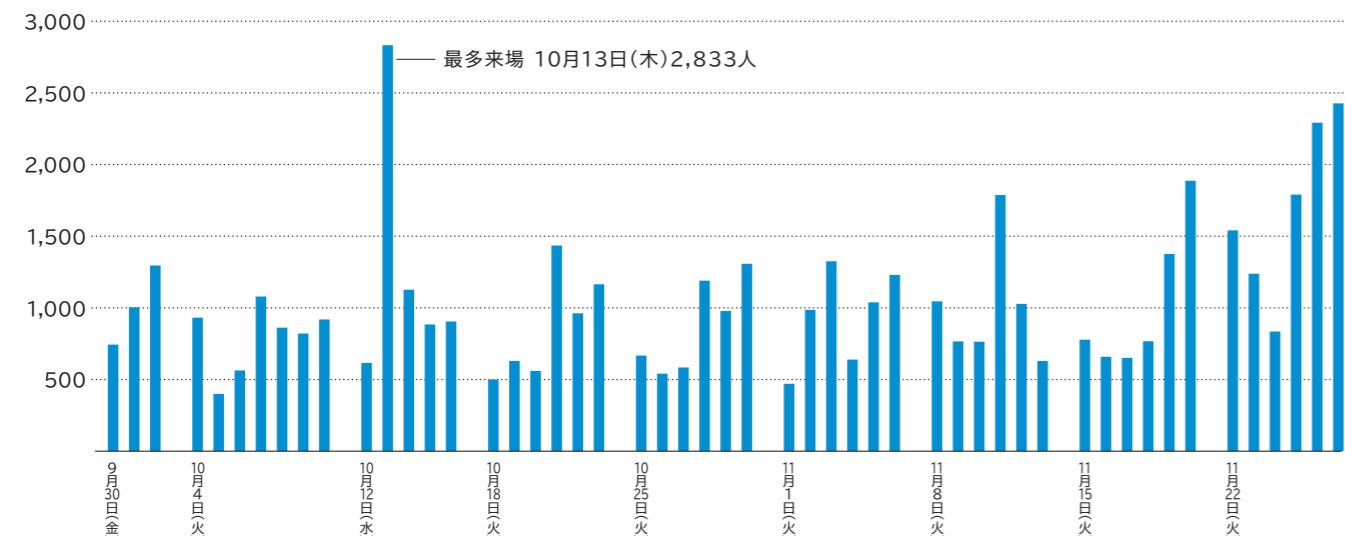
無料施設・屋外展示来場者数: 計124,204人

会場	人数
岡山後楽園	14,088人
岡山神社	4,973人
石山公園	48,111人
岡山城	30,477人
岡山天満屋	26,555人

延べ来場者数推移



有料施設来場者数推移



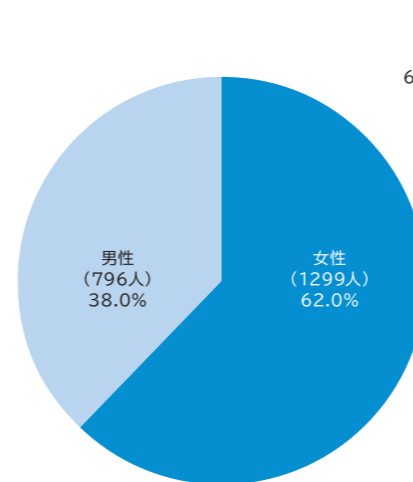
来場者アンケート調査

来場者の属性、評価、意見などを把握するため、旧内山下小学校、岡山県天神山文化プラザ、岡山市立オリエント美術館、林原美術館の4会場において来場者へのアンケート調査を実施した。(回答者数2,095人)

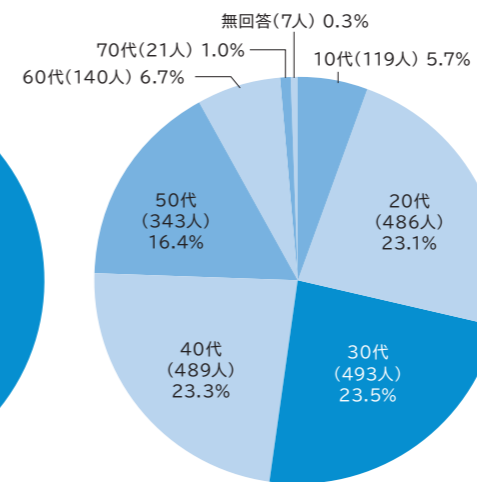
- 性別は女性が約62%、年齢は10代~40代の層で全体の4分の3を占めている。
- 岡山市内を含めた岡山県内からの来場が6割を超え、前回(53.3%)に比べ増加した。
- 県外からの来場は約36%で、関東(東京)、近畿(大阪・京都・神戸)など都市圏が主となっている。
- 海外からの来場は0.8%で、前回(6.8%)に比べ大幅減となった。
- 飛行機及び新幹線の利用割合は約23%で、前回の約31%から減少している。
- 宿泊客は約32%であり、前回同様の割合を占めている。
- 会場間の移動は徒歩が7割を超え、旧内山下小学校中心に複数会場を周遊している。
- リピーターは約39%で、前回(約27%)から伸びている。
- 総合評価は「とても良い」「まあ良い」で約86%を占めており、次回来場意欲も高い。

●属性

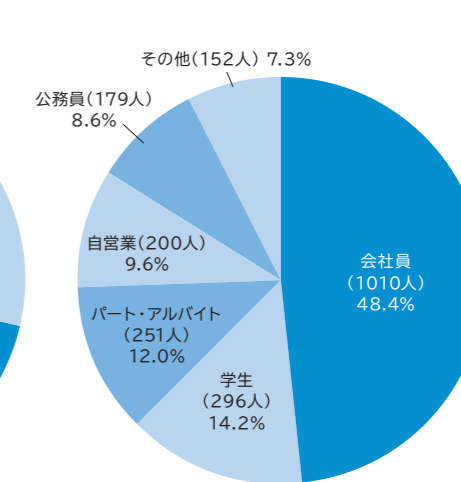
性別



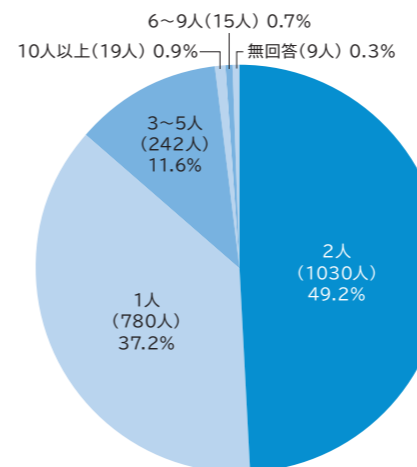
年齢



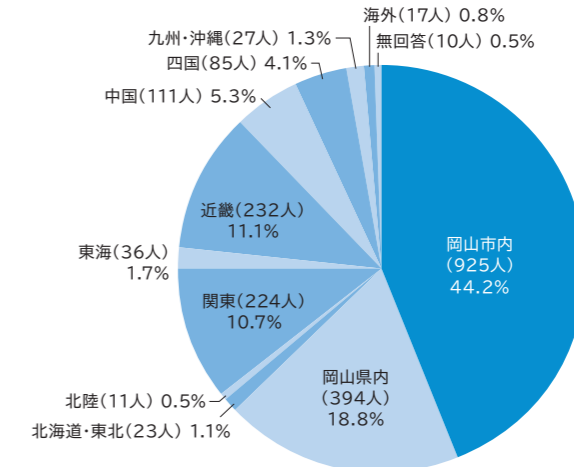
職業



来場人数



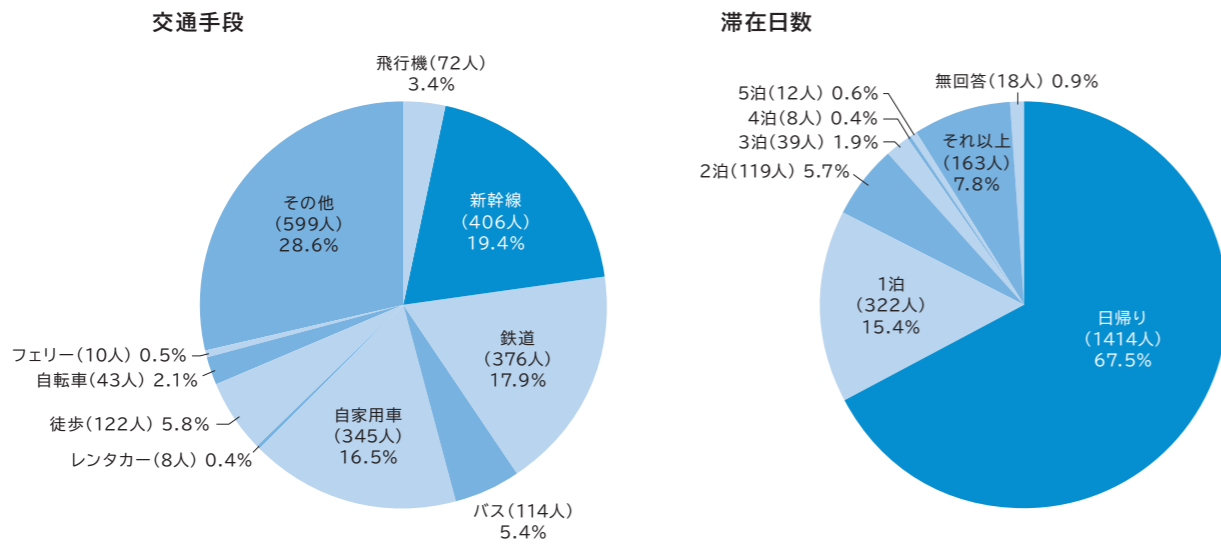
お住まい



※国内は青森、岩手、山形、福島、新潟、山梨、長野、長崎、宮崎、沖縄を除く37都道府県から来場の回答
※海外は中国(3)、韓国(3)、タイ(3)、台湾(2)、アメリカ(1)、香港(1)、シンガポール(1)、その他海外(3)から来場の回答

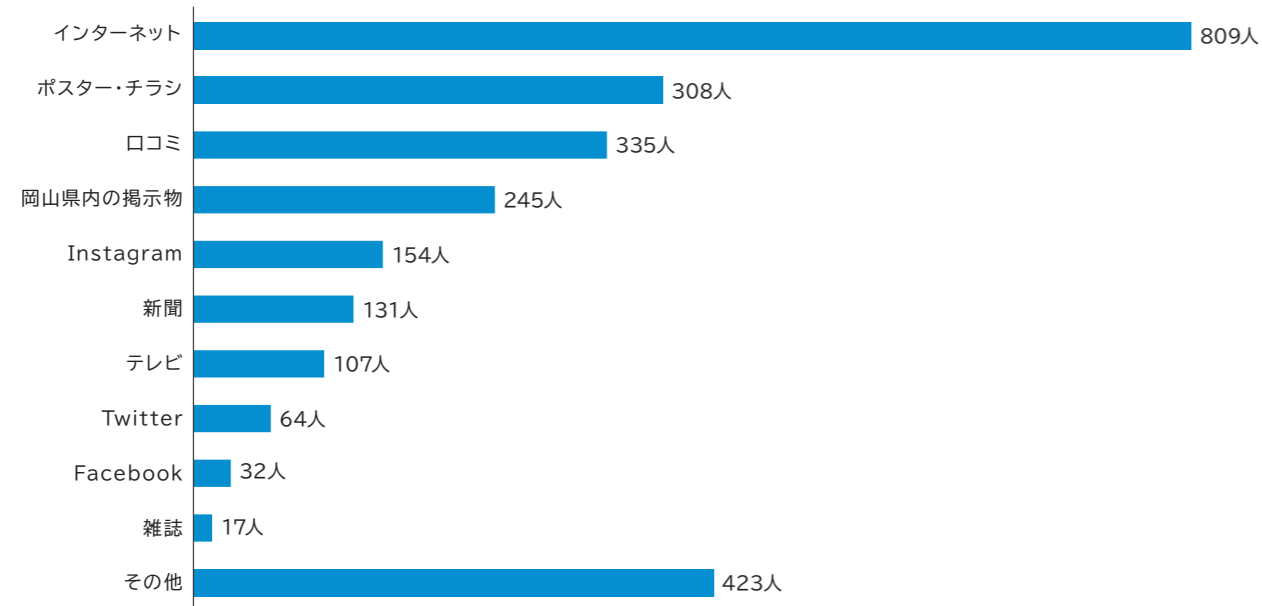
来場者アンケート調査

●交通・宿泊



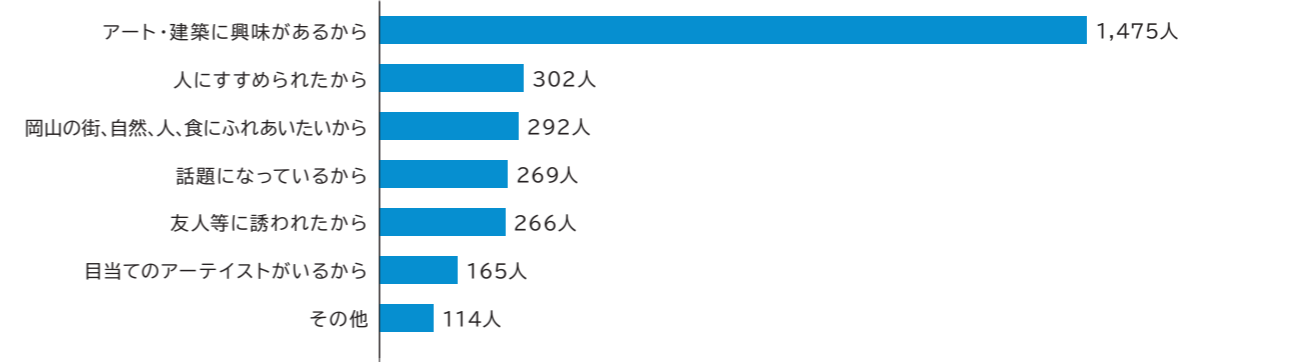
●来場のきっかけ

今回の芸術交流をどのようにして知ったか(複数回答)



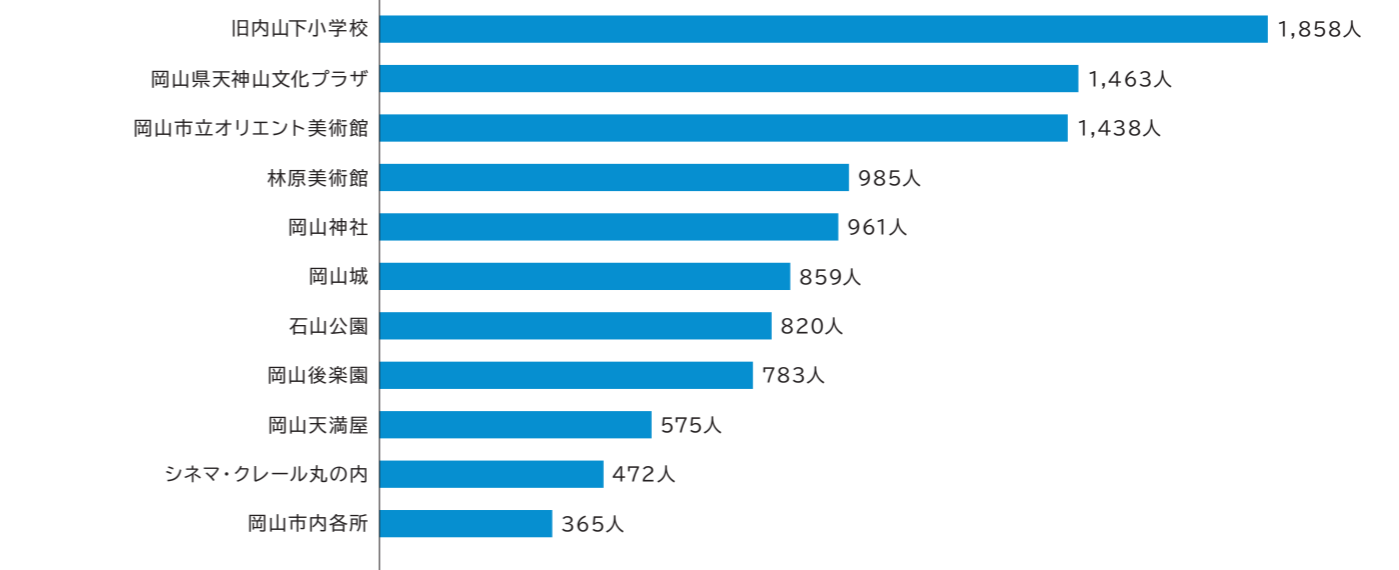
来場者アンケート調査

来場の動機(複数回答)

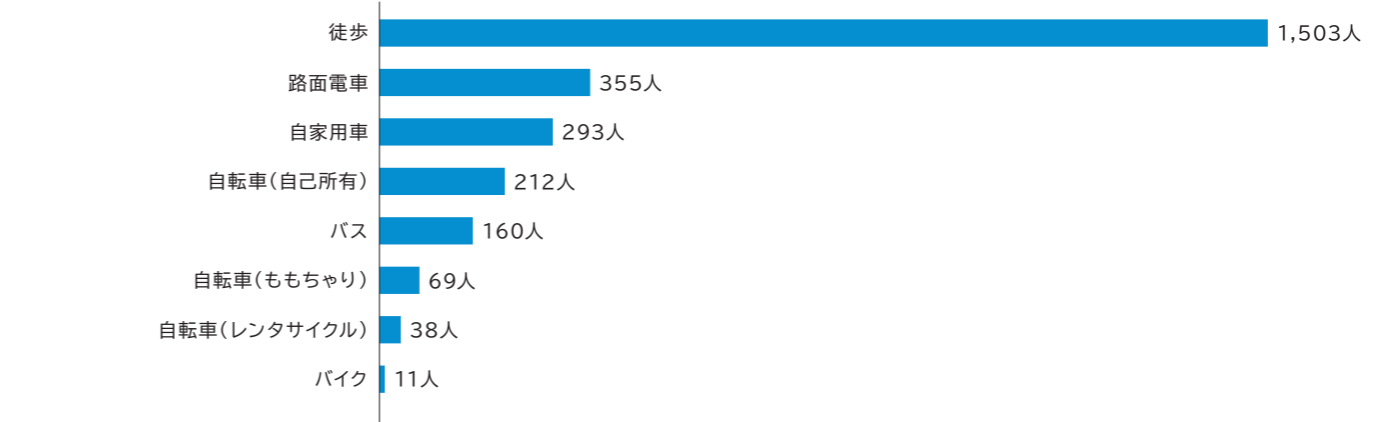


●鑑賞

鑑賞した会場(複数回答)



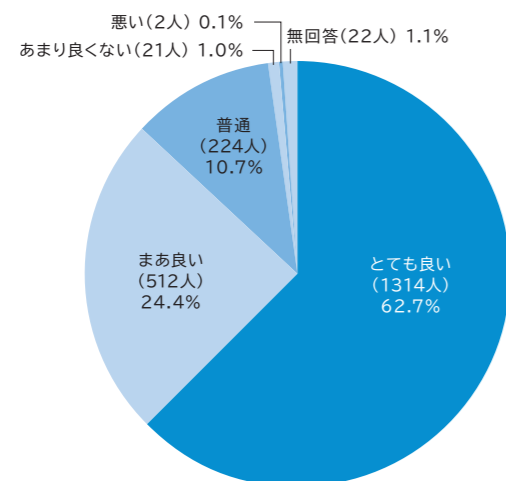
会場間の移動手段(複数回答)



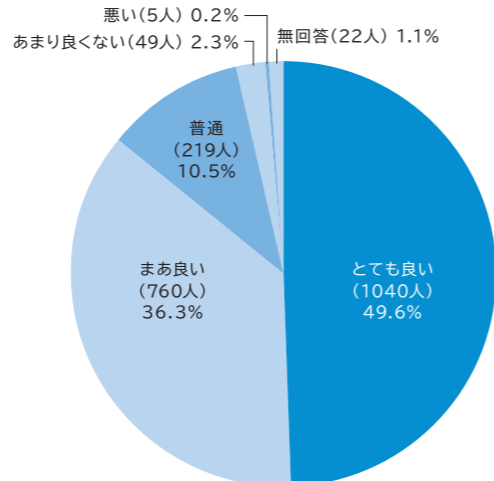
来場者アンケート調査

●評価

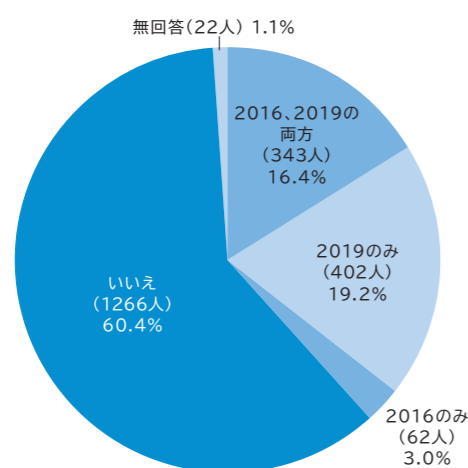
スタッフの対応



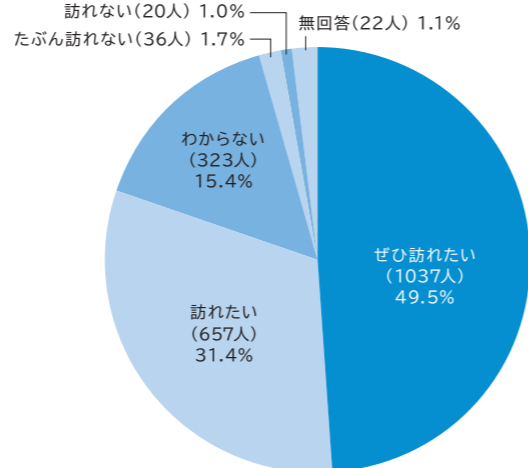
岡山芸術交流の総合評価



過去の岡山芸術交流には来場されたか

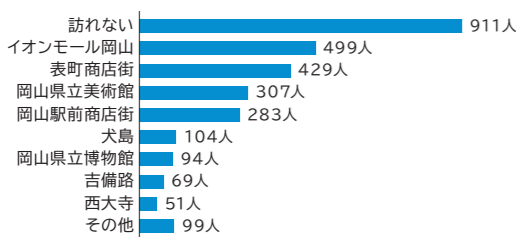


次回の岡山芸術交流にも訪れたいか

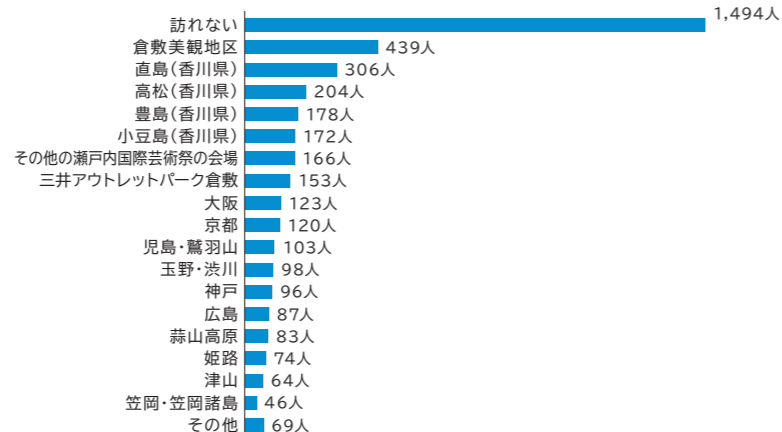


●岡山芸術交流2022以外の訪問

岡山市内の観光地など(複数回答)



岡山市外の観光地など(複数回答)



来場者アンケート調査

●自由記述

評価

○作品に関するもの

- ・毎回、意表を突いた作品が出てくるので岡山は訪れたいがあります。先週まで「あいち2022」に参加していた作家(アビチャップン、笹本晃)の会場違いによる比較等も含めて楽しめました。1日で回れるコンパクトさも魅力です。
- ・クオリティの高い作家をいつも招聘しているので、毎度見応えがあります。今後も楽しみにしています。
- ・芝生で遠慮している小学生を見ました。小さい内から芸術に触れる機会があることは今後の素敵な経験として残ると思います。
- ・初めて伺いましたが、作品が充実していてとても興味深かったです。芸術交流を機に岡山の施設を訪れることもでき、良い機会となりました。
- ・古代の資料と、現代アートが絡み合ったオリエント美術館の展示が自分にとって新しいもので、現代アート作品の見方が深まりました。楽しく見学させていただきました。

○会場配置に関するもの

- ・徒歩で1日あれば回れて、まちなかで行われているのでとても過ごしやすくて良かったです!! 廃校の会場は作品も良いですが、場所自体が新鮮で楽しめました。
- ・旧内山下小、無料エリアができて良かった。
- ・県内在住ですが、街中を徒歩で歩き回ることが皆無なので、今回、会場を徒歩で周遊する新鮮さがあったのが良かったです。

○スタッフに関するもの

- ・スタッフの方の対応が良かったです。とても気持ちよく過ごすことができました。
- ・係の人から話しかけてくれるので、こちらもわからないことがあると聞きやすかったです。
- ・写真を撮っていいか、係りの方に聞いたら、写真について以外にも情報を教えていただけ助かった。

課題

○作品に関するもの

- ・調子の悪い作品があつて再度来ることになった。
- ・音声のある作品はお互いが干渉し鑑賞困難になるので離して展示してほしい。
- ・キャプションの説明が難しいので簡単な説明も出してほしい。
- ・展示内容に関して物足りなさを感じた。一流アーティストの作品が、岡山市内でふとしたところに点在している、そんなワクワク感があまり味わえなくなってしまった。3年後に期待します。

○会場に関するもの

- ・ウェブチケットの交換が旧内山下小学校しかできないのは不便でした。どの会場でもできるようにしてほしい。
- ・無料でもらえる展示会場のマップに会場間の徒歩での移動時間を記載してほしいです。初めてのほうにモデルコースなどあればなおよし。
- ・施設内に順路があったらわかりやすいと思いました。
- ・古い建物の利用は良いが車椅子では大変だった。

○実施体制に関するもの

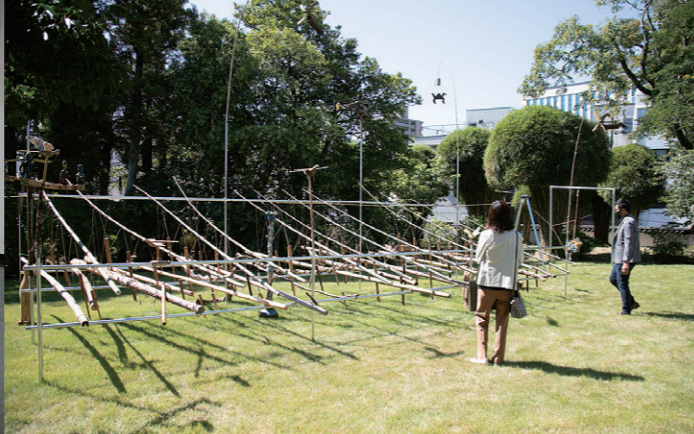
- ・総合プロデューサーのハラスメントの問題をきっちりと清算しないままに行われる芸術祭は素直に楽しむことができない。
- ・総合プロデューサーの問題に対して実行委員会として対応が不誠実。作品は良かった。
- ・作品やスタッフさんの対応は良かったが、会期前はセクハラ問題についての対応が悪くなかった。もっと実行委員会としてやるべき対応があったのでは。

○広報・告知に関するもの

- ・駅から会場までの道中、もっと案内表示があると助かります。
- ・岡山に住んでいる人へのアピールの仕方が下手だと思う。
- ・ホームページが分かりにくい。駐車場を探すのが大変だった。どこにどういった作品があるのか分かりにくい。

○アンケートに関するもの

- ・アンケートの最初の質問が男性か女性かの2択になっているのは、今回のコンセプトとかけ離れている気がした。多様性という意味で、他の選択肢があれば良かったと思う。
- ・アンケートが長すぎる。



IX 効果

経済波及効果・パブリシティ効果

経済波及効果

岡山芸術交流2022の開催により、岡山県内分で約15.3億円、岡山市内分で約11.6億円の経済波及効果があったと推計した。

経済波及効果の推定結果(一般財団法人岡山経済研究所 推計)

1 岡山県内分

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
県内事業費	211百万円	56百万円	77百万円	345百万円
来場者消費額	731百万円	278百万円	177百万円	1,185百万円
合計	942百万円	334百万円	254百万円	1,530百万円

2 岡山市内分

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
市内事業費	202百万円	40百万円	53百万円	295百万円
来場者消費額	542百万円	204百万円	122百万円	868百万円
合計	745百万円	243百万円	176百万円	1,164百万円

※直接効果……岡山芸術交流の事業費及び来場者による県内(市内)消費額によって、県内(市内)産業部門に直接に生産を誘発する効果。

※第1次波及効果…原材料を他産業から購入することによって起こる生産誘発額効果。

※第2次波及効果…直接効果と第一次波及効果によって誘発された生産から生み出された雇用者所得が新たな消費に向けられることにより、再び生産を誘発する効果。

パブリシティ効果

岡山芸術交流2022の開催に係るメディア報道におけるパブリシティ効果(広告費換算額)は、約8.6億円であったと推計した。

パブリシティ効果の推計結果(株電通西日本岡山支社 推計)

種別	掲載・放映件数	総合効果
新聞	95件	43百万円
テレビ	78件	234百万円
ラジオ	7件	4百万円
雑誌・フリーペーパー	5件	2百万円
ウェブサイト等	1,686件	580百万円
合計	1,871件	863百万円

各媒体において、掲載・放映された枠を広告出稿した場合の料金を1件ごとに算出して、その合計額をパブリシティ効果の推計値とした。

評価

新聞・ウェブサイト

山陽新聞／令和4年11月20日

編集ノート 現代アートとの交流

「難解な現代アート展」のイメージが少なからず変わった。岡山市中心部で27日まで開催中の「岡山芸術交流2022」の会場を歩き、そう実感している。

過去2回の芸術交流は欧米の最先端アートを前に、腕組みしながら巡った印象が強い。しかし今回は芸術監督を務めるタイ人美術家 リクリット・ティラヴァーニャさんの発案により、鑑賞者が参加・体験できる「作品」が目立つ。

展覧会全体を眺めたとき、自由な解釈を鑑賞者に委ねたり、差別や分断などの社会的テーマを直接問うたりする作品も少なくない。だが、展覧会タイトルの「僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか」が示すように、コロナ禍やウクライナ危機に世界が揺れる中、リクリットさんの「アートを介した人と人の相互理解が、困難に立ち向かう力になる」との意思是、総体的に伝わってくる。

難解に思われがちな現代アートだが、作品との気軽な「交流」が深まれば、より多くの鑑賞者がアーティストの深意に触れられるはず。それは、さまざまな困難を抱えた私たちの今を変える、一歩に繋がるのかもしれない。

WEBUOMO.JP／令和4年10月24日

アートに変わる街は“みんなで見る夢”。国際モダンアート展「岡山芸術交流」が開催中。

オープニングレセプションには地元の小学生約100名が参加、ティラヴァーニャは即興で「？」の人文字を子供たちと一緒に作ることを提案した。校庭の芝生にしつらえられた“DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY?”に対する答えはひとつではなく、アーティストや子供たちそれぞれの、そして私たちそれぞれにとって多様なものであるはず、とのメッセージを感じた。

Pen Online／令和4年10月26日

岡山の街を歩き、濃密なアート体験の1日を過ごす『岡山芸術交流2022』

一般的に地方の芸術祭というのは、町おこしのために交流人口を増やすことを目的に開催されることが多い。しかし岡山芸術交流の目的は、「まずは町おこしではなく人おこし」だと総合ディレクターを務めるギャラリスト的那須太郎(TARO NASU)が語る。アートに関心を持っている「オーディエンス」だけではなく「パブリック」に、つまり、近隣に暮らすあらゆる人々にアートに興味を持ってもらうことが重要で、そうした人々が増えれば街に面白いことやものが生まれ、自然と交流人口は増えていくはずだという長期的視点を持って「岡山芸術交流」はスタートした。

アーティストックディレクターを務めるのは、毎回キュレーターではなくアーティストだ。2016年の第1回は、リアム・ギリック。1960年代以降のコンセプチュアルな現代アートを同時代まで追いかけるようなプログラムとなった。そして、第2回はピエール・ユイグ。第1回から発展し、同時代の最新のアート表現を集結させる意図で参加アーティストがラインナップされた。そして今回のリクリット・ティラヴァーニャ。よりコミュニティについて考えさせる作品群が並ぶ。

ティラヴァーニャは出品作品の選出について、「異質な文化的あるいは社会的背景を持っているという意味」で、「旅人という共通の背景を持つアーティストの周辺的な活動に集中したい」とステートメントで述べている。岡山城も含む周辺エリアに点在する10会場は、どこも徒歩圏内であり、丸1日かけて回れば全体をじっくり堪能することができる。ぜひ現地に足を運び、岡山の街歩きとあわせて楽しんでみてはいかがだろうか。

ARTLOGUE

夢をみることの重要性を問いかける「岡山芸術交流2022」開幕中！

本年度はアーティストックディレクターにリクリット・ティラヴァーニャを迎え、岡山城や岡山後楽園周辺エリアの様々な歴史文化施設10会場を舞台に展開。すべて徒歩圏内でまわれるので、街歩きをしながらアートに触れることができます。また、本展が地域に開かれ、根ざし、持続可能な芸術祭になるように、パブリックプログラムも充実。例えば、アーティストトークや対話型鑑賞、子供ナビと楽しむアートツアー、クロージングイベントなど、岡山内外の人・場所・文化遺産の3つのポテンシャルを活かした様々な企画が展開されるので、ぜひこちらもお見逃しなく。

X 実行委員会

組織

会長

大森雅夫(岡山市長)

副会長

横田有次(岡山県副知事)

松田久(岡山商工会議所会頭)

総合プロデューサー

石川康晴(公益財団法人石川文化振興財団理事長)

総合ディレクター

那須太郎(TARO NASU代表/ギャラリスト)

アーティストックディレクター

リクリット・ティラヴァーニャ(アーティスト)

パブリックプログラムディレクター

木ノ下智恵子(大阪大学21世紀懐徳堂准教授)

顧問

和氣健(岡山市議会議長)

槇野博史(国立大学法人岡山大学学長)

宮長雅人(㈱中国銀行取締役会長)

監事

井上信二(井上公認会計士事務所)

委員

石井清裕(公益社団法人おかやま観光コンベンション協会会長)

塩田勇(岡山カルチャーゾーン連絡協議会会長)

平野博之(大学コンソーシアム岡山会長)

松田正己(㈱山陽新聞社代表取締役社長)

里見俊樹(RSK山陽放送㈱代表取締役社長)

中静敬一郎(岡山放送㈱代表取締役社長)

土井雅人(テレビせとうち㈱代表取締役社長)

小嶋光信(公益社団法人岡山県バス協会会長)

永山久仁彦(一般社団法人岡山県タクシー協会会長)

藤原乗将(西日本旅客鉄道㈱岡山支社支社長)

越宗孝昌(公益財団法人岡山文化芸術創造理事長)

石川康晴(公益財団法人石川文化振興財団理事長)

三宅泰司(岡山市教育長)

小川祥子(岡山市産業観光局長)

中原貴美(岡山市市民生活局長)

(令和4年9月現在の構成員)

収支状況

2020年度事業費内訳(決算)

[収入]		(単位: 千円)
区分	金額	
負担金	10,000	
岡山市	5,000	
公益財団法人石川文化振興財団	5,000	
前年度繰越金	11,308	
合計	① 21,308	

[支出]		(単位: 千円)
区分	金額	
アートプロジェクト費	3,202	
ディレクター費	3,201	
運営活動費	1,510	
広報費	50	
事務局運営関連費	1,460	
合計	② 4,712	

※収支差額(①-②) 16,596千円は2021年度へ繰越

2021年度事業費内訳(決算)

[収入]		(単位: 千円)
区分	金額	
負担金	50,000	
岡山市	25,000	
公益財団法人石川文化振興財団	25,000	
補助金・助成金	1,000	
諸収入	14	
前年度繰越金	16,596	
合計	③ 67,610	

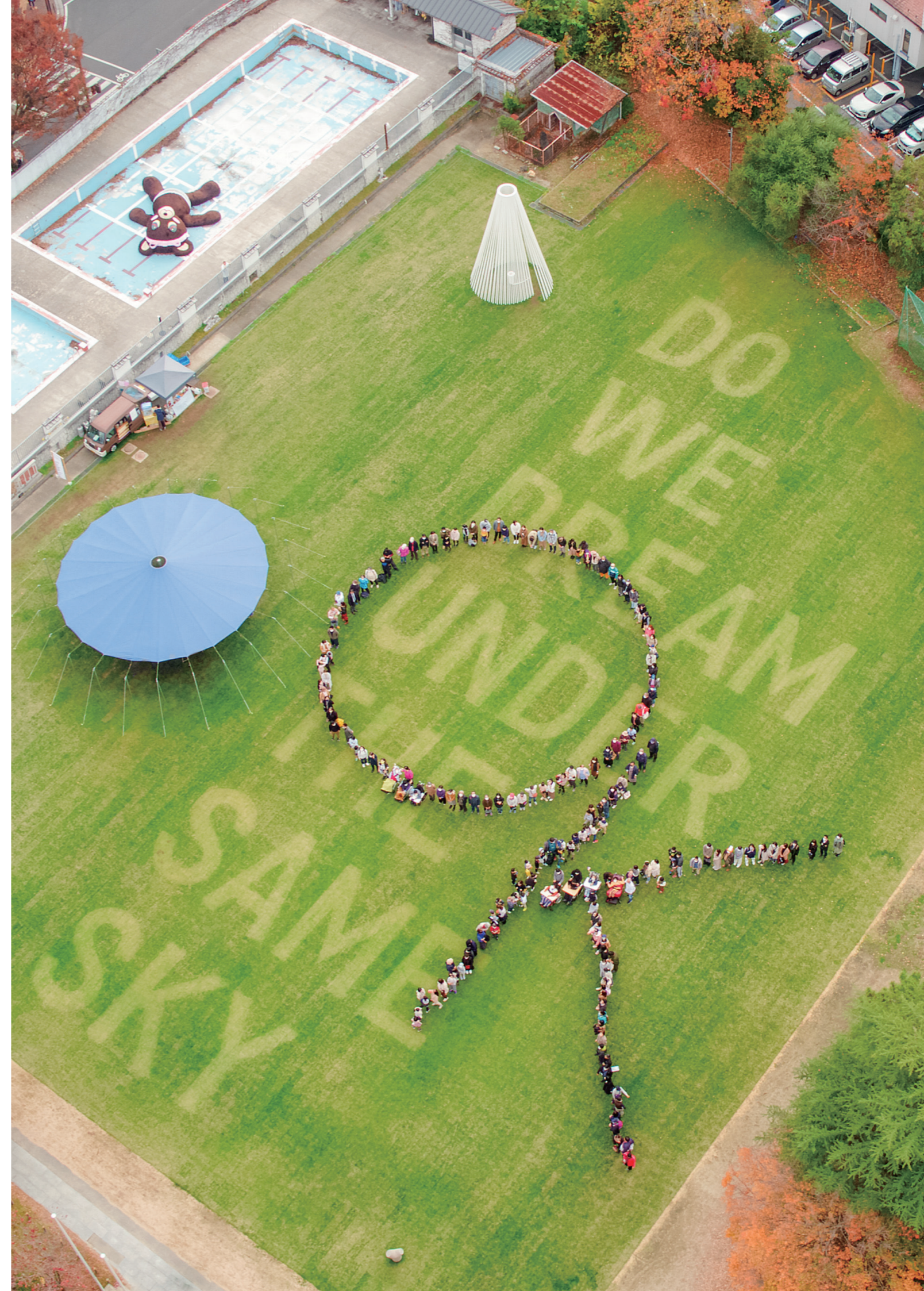
[支出]		(単位: 千円)
区分	金額	
アートプロジェクト費	34,419	
作品制作関連費	10,662	
ディレクター費	20,929	
イベント関連費	2,828	
運営活動費	11,167	
会場運営費	6,909	
広報費	1,574	
事務局運営関連費	2,684	
合計	④ 45,586	

※収支差額(③-④) 22,024千円は2022年度へ繰越

2022年度事業費内訳(決算見込み)

[収入]		(単位: 千円)
区分	金額	
負担金	250,000	
岡山市	100,000	
岡山県	50,000	
公益財団法人石川文化振興財団	100,000	
補助金・助成金	90,000	
地域創生応援税制寄付金	14,000	
協賛金	70,285	
チケット等販売収入	23,161	
諸収入	7,531	
前年度繰越金	22,024	
合計	477,001	

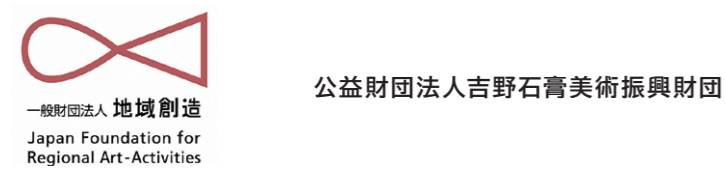
[支出]		(単位: 千円)
区分	金額	
アートプロジェクト費	288,022	
作品制作関連費	240,802	
ディレクター費	21,290	
イベント関連費	25,930	
運営活動費	156,160	
会場運営費	61,646	
広報費	64,109	
事務局運営関連費	30,405	
合計	444,182	



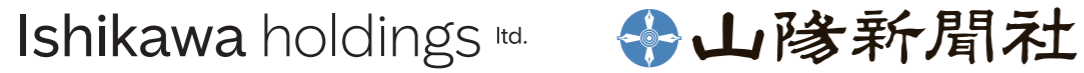
補助金



助成金



特別協賛



協賛



後援



岡山芸術交流2022 開催報告書
令和5年(2023年)3月発行

岡山芸術交流実行委員会事務局
〒700-8544 岡山市北区大供1-1-1 岡山市市民生活局スポーツ文化部文化振興課内
TEL.086-221-0033 FAX.086-221-0031
E-MAIL: info@okayamaartsummit.jp
www.okayamaartsummit.jp/2022/